

令和4年度第1回滝沢市上下水道事業経営審議会議事録

I 日 時 令和4年7月19日（火）10時00分～12時00分

II 場 所 滝沢市役所分庁舎 第6会議室

III 出席者 上下水道経営審議会委員出席7名（欠席2名田村康樹委員、田村武委員）

【滝沢市上下水道事業経営審議会委員】

山田一裕委員、宮沢一正委員、谷川透委員、関晴恵委員、
熊谷稔委員、新田育夫委員、赤塚貴史委員

【滝沢市】

滝沢市長 主濱了

上下水道部 部長 及川竜悦

水道総務課 課長 小林純子、総括主査 高橋竜也、主事 高橋佑奈

水道整備課 課長 角掛雄一、総括主査 長谷川唯倫、総括主査 林野和恵

下水道課 課長 古前田聡、総括主査 黒澤滋

IV 次 第

1 開会

2 挨拶

市長挨拶、委員及び事務局の紹介

3 議事

(1) 会長及び副会長互選

事務局案により、会長に山田一裕委員、副会長に谷川透委員に決定した。

(2) 議事録署名人の指名

会長より、議事録署名人に関晴恵委員、新田育夫委員を指名した。

(3) 報告事項

以下①～⑤の報告事項について事務局から説明し、これに対し質疑応答があった。

① 下水道事業に係る経営戦略等の見直しについて（下水道資料1～2）

【山田委員】下水道事業は汚水処理だけでなく適切な雨水排除の事業も含まれると思うが、昨今の水害が頻発している状況も踏まえ、経営戦略の中で雨水排除の適正化等事業について触れておく必要はないか。

【下水道課長】雨水に関しては次年度以降動きが出てくる。今年度の秋口に事業計画の見直しがあり、そちらでも謳っている内容になる。今後事業計画の見直しを鑑みて、経営戦略に入れるものは入れていく形をとりたい。

【山田委員】了解した。現在の資料では触れられていないが、今後盛り込まれてい

く予定であると理解した。

【熊谷委員】下水道の整備区域と整備検討箇所がある。整備区域は理解できたが整備検討箇所とはどのようなことか。

【下水道課長】検討箇所というのは現状ではほぼ整備を終えた区域である。密集地のいずみ巣子ニュータウンや盛岡農業高校は整備していく可能性があるが、その他の市街化区域は整備しないとといった進め方になっている。

【熊谷委員】了解した。

【山田委員】また事務局から資料が出た段階で委員の皆様から意見をいただいて修正等していくように進めていく。秋にまた頻繁に経営審議会が開催される予定なのでその時には忌憚なく発言していただきたい。

② 水道事業経営に係る現計画の振り返りについて（水道資料1～2）

【山田委員】現行水道ビジョン「安心・安全」の目標とする指標のうち「塩素臭から見たおいしい水の達成率」について、理化学的な指標で見た場合に100%という実績だが、「令和3年度水道に関するアンケート調査」（以下、アンケート調査と言う。）の結果を見ていると、塩素臭に対して不満を持っているような回答があった。その要因と実績のギャップはどう考えているのか。

【水道整備課長】指標の実績については、残留塩素が0.4mg/L以下になっていることを基準とし、毎日水質検査の結果からも100%達成としている。しかし、アンケート調査結果を見ると、塩素臭を感じるという回答もある。これには水温が関係している。水温が高いと塩素臭を感じやすい。特に末端に近い地域の方は、それだけ水が水道管を長く通ることになるため塩素臭を感じやすくなる可能性があるということから、ギャップがあると考えている。

【山田委員】柳沢低区や一本木地区等同じ地域で、塩素臭を感じるという意見が出ているようだ。指標は指標だが、実態として不満感を抱えている人がいるということ踏まえ、今後改善に寄与するような計画を立てていただきたい。

【関委員】水道資料2-1の2ページ目で、(2)安心・強靱の中の「災害時応急対策の推進」について、受援計画が達成できなかったとのことだが、災害時対応に係る受援体制について具体的にはどのようなになっているのか。

【水道整備課長】災害時の支援の受け入れについて、これまで実績はほぼない。滝沢市で考えられる大規模災害は地震によって配水管が壊れて配水系統一帯水が出なくなることだが、シミュレーション等の作成はまだ行っていない。

また、盛岡市との境界4か所で連絡管がつながっている。それらの箇所ですべて災害に備えた訓練は行っている。

現状は、災害が起きても被害を受けにくいように、配水管や配水池の耐震化を進めている状況である。

【上下水道部長】水道整備課長からは技術的な面で説明したが、ソフト面での補足をしたい。滝沢市で災害が起きた際に、他の事業体から支援の申し出があった場合、受け入れ体制ができていなければ円滑に進めることができない。その仕

組みがまだ整っていないため、今後取り組んでいく必要があると考えている。

【関委員】了解した。

【新田委員】水道資料2-2において、管路の耐震化率とあるが、耐震化したものはどのくらいか、あるいは現状の耐震はどの程度のものなのか。

【水道整備課長】耐震化している水道管は震度6強でも耐えることができる。耐震化していないものは、震度6強未満で割れて漏水する可能性がある。

東日本大震災では、漏水があったものの、全体として水の供給はできていた。

【山田委員】災害対策には、ハード面とソフト面がある。技術はもちろん向上するので、耐震化への備えは着々と進められていくと思うが、東日本大震災の教訓で「技術を過信してはいけない」ということを得ていると思う。災害があった時に、どこに行けば安心して水が得られるのか、あるいはどの情報をもとに行動すればいいのか、そこを整えるのが事業者としての責任であると思う。水道使用者アンケート調査においてもこのことについて心配の声があったので、次期水道ビジョンにはソフト面についてもぜひ整えてほしい。

【山田委員】資料2-1の2ページ「給水区域の拡大」に関連して、一本木の組合（柳沢開拓専用水道組合）との継続の意思を確認したということであるが、施設の更新についてはどのようにしていくのか。

【上下水道部長】柳沢開拓専用水道組合の継続意思は令和元年度に確認しているが、その時点では施設の具体的な更新維持等の協議はしていない。今後協議の中で組合が適正に専用水道を維持していけるように指導していかなければならない。今後、水道ビジョンの見直しも含め継続的に協議していく。

【山田委員】肝に銘じておかなければならないのは、設備の更新が先延ばしにされて、結果、市に大きな負担がかかるということのないように、前倒しで設備更新を進めていくべく、組合と協議を進めてほしい。大切な水資源なので有益に共有できるような働きかけをしてほしい。

③ 水道使用者アンケートの分析について（水道資料3）

【熊谷委員】水道について知らない人が多いのではないかと。広報活動の取組みに力を入れていく必要があるのではないかと。水道水の塩素管理を知らずに感覚で意見をしている人もいそうである。コロナウイルスの感染状況を見ながらになると思うが、教育委員会に働きかけて小学生の浄水場見学等、子供たちにももっと水道について知る機会を増やしてほしい。また自治会との提携にも力を入れていけば、もう少し理解が増え不満も減るのではないかと。

【水道整備課長】浄水場見学については小学校から要請はあったが、一昨年からコロナウイルスの関係からお断りしている。浄水場職員が5人と少人数で、もしコロナウイルスに罹患してしまうと、浄水場が稼働しなくなってしまう危険性があるためである。来年度以降コロナウイルスの状況を鑑みながら浄水場見学を再開していきたい。

【水道総務課長】広報担当から回答する。上下水道広報誌は通常、年に2回発行だ

が、コロナウイルスの影響から対面での啓発活動を控えていたために、その補填として広報誌の臨時号を発行する等して情報提供に努めてきた。先日、山田委員との事前打合せの中で、アンケートの自由コメント等に寄せられた不満について、その不満の原因が事業所に原因があるのか、お客様の給水装置の不備あるいは使い方によるものなのかを整理して、解決してあげられるような情報提供が必要なのではないかという意見をいただいた。それをどのようにしてわかりやすく広報していくかは検討が必要だと思う。

【山田委員】アンケート調査において、郵送方法での回収率が約半数という実績は驚異的である。それだけ使用者の皆様が水道事業について関心があるということだと思う。ぜひその分析も含めて今後の施策に生かしていくように本審議会でも取り上げてほしい。

アンケート問10選択肢中の「自然保護への配慮」の趣旨が水源管理に関わることであったが、使用者にうまく伝わっていないようであったため、今後アンケート調査において設問を作る際には、趣旨が伝わるように配慮したほうが良い。

【宮沢委員】コロナウイルスの影響で啓発イベントができなかったということだが、自分の仕事においてもイベントができず代替になるようなWeb開催等を求められることがある。今回のアンケート調査の対象は無作為抽出した使用者とのことだが、教育委員会を通じて、学校の生徒に直接質問してみるということも良いのではないかと。

【山田委員】コロナウイルスの状況で学校におけるリモートへの設備も整ってきている。例えば、浄水場見学の代わりに、浄水場の動画をとって学校に提供するなど工夫があっても良い。今後検討してほしい。

④ 水道事業アセットマネジメントについて（水道資料4）

【山田委員】資料4の中で色々シミュレーションされているが、条件により余裕を持った数値になっているため、現実的には数値で示しているよりも耐久性のあるものもあると思う。アンケート調査に絡めると、耐震設備あるいは耐震管路をどこにどの程度実施したのか見えてこないことに対して不満を示している回答があった。このことについて、事業の結果を見える形で示さなくてはならないと考えると、見せるべき優先度の高い地区はどこなのか、あるいはどこの施設なのかを絞っていけば経費的に抑えられるのではないかと思う。

資料は今後の審議会にも話題に上がると思うので委員の皆様については目を通して欲しい。前提として水道料金を上げるということではない。適切な資産管理をしていけば料金の改定も小幅に動くということもある。その点も含めて検討してほしい。

- ⑤ 令和4年度滝沢市上下水道事業経営審議会スケジュールについて（追加資料2）
【山田委員】木曜日は大学の授業のためそれ以外の曜日を希望する。今後、事務局と日程調整し開催日を決定していくのでご協力をお願いしたい。

5 閉会